

いのちをつなぐ

SARAYA

webサイトは
こちらから



感染と予防

prevention of Infection

vol.7

コロナ禍で学ぶ
「世田谷区立梅丘中学校」の
感染対策と新たな日常





も、習慣化されているように感じます。冬場になり、冷たい水での手洗いを躊躇しているのか、石けんや消毒の使用量が少し減っている印象もありますので、経過を注視していきたいと思います。うがいについてですが、飛沫の観点から禁止しているところもあるかもしれませんが、本校では歯磨きも含めて制限は設けていません。但し、水道や冷水器の使用方法については、直飲みはせず、必ず水筒やコップに入れてから飲むよう、指導しています。

コロナ禍において、生徒の皆さんの変化など感じることはありますか？

生徒たちの生活からは、教員が言わなくともマスクの着用や黙食の徹底など、互いに声を掛け合い実践しており、感染対策への意識の高さが伺えます。それは、学校生活において感染者が出れば行事や部活動などが中止になるなど、自分だけでなく周りも辛い思いを強いられる、という現実を認識してきたからかもしれません。

健康面など二次的な影響はありましたか？

自粛明けは、持久走などの結果に低下が見られましたので、一時的な体力の低下を感じました。また、マスク生活に慣れてしまったことで、素顔をみせることに抵抗があり、マスクを外しがたらない生徒がいることが少し気かりです。今後も様子を見守っていきたいと思います。反対に、本校のインフルエンザ感染者は昨年に続き、今年もまだ一人も出ていません。冬場に多い感染性の胃腸炎の流行も見られないので、一人ひとりの意識の高さが、このような良い結果をもたらしているのだと感じています。



最後にメッセージをお願いします。

コロナ禍において、不自由な生活を余儀なくされてきましたが、コロナが教えてくれたこともあります。感染対策は、自分の健康状態を把握することでもあるので、自己管理能力の向上にも繋がったのではないのでしょうか。また、生徒たちには感染対策を行なうのは、「自分を守ると同時に、他者を思いやるため」と伝えていきます。これまでの生活を通して、思いやりの心も学んでもらえたらうれしいです。そして、何より生徒たちが強く認識したことは、「当たり前前の日常は、決して当たり前ではない」



かった」ということです。体育祭や修学旅行に帰省、当たり前だったことがなくなっただけで、初めて気づかされたのではないのでしょうか。同時に、「すべてがなくなっただけではなく、自分たちの努力次第で叶うものもある」ということを学ぶことができました。限られた条件でできることは何か、自らが考え、それが達成できたときの喜びは、生徒たちにとってかけがえない経験になったと思います。私たち教員も、感謝の気持ちを忘れずに、当たり前や過去にとらわれることなく、すべては生徒たちの笑顔のために知恵を働かせて、共にこれから作っていききたいと思えます。

インタビュー
ご回答者



校長

岩崎 紀美子様



養護教諭

河原 詩樹様



世田谷区立梅丘中学校

創立：昭和22年4月
生徒数：368名(令和4年12月6日現在)
所在地：東京都世田谷区松原6-5-11

御校の概要についてお聞かせください。

梅丘中学校は、昭和22年に創立され、平成29年に創立70周年を迎えました。これからの時代を自立した人間として、他者と協議しながら、創造的に生き抜くための資質・能力の育成を目指し、「心豊かな人」「真剣に考える人」「実行力のある人」を教育目標に掲げています。現在生徒数は、男子206人、女子162人の合計368人で11学級あります。地域では部活動が盛んなイメージの強い本校ですが、部活動だけにとどまらず、俳句や標語、中学生の「税についての作文」、英語のスピーチコンテスト、ビブリオバトルなどにも積極的に参加しています。生徒それぞれが興味を持った分野において、活躍の場を広げられるよう、教員たちは日々指導しています。

新型コロナウイルス対策について、具体的な取り組みをお聞かせください。

新型コロナウイルスの流行初期は、定期的な換気に加えて、消毒の徹底に注力していました。物を介した接触感染のリスクがどの程度なのか分からなかったこともあり、生徒たちが共通して使用する手すりや照明のスイッチ、トイレのドアなど、授業が終わると全教員で分担をして、すべて消毒して回っていました。

ました。生徒たちに関しては、マスクの着用はもちろんですが、今以上に検温の徹底を呼びかけていました。検温を忘れて登校した場合は、保健室で検温をして、発熱がないことを確認してから、教室に入りました。万が一、登校後に体調が悪くなった場合は、原則帰宅という対応をとり、感染拡大のリスクを少しでも軽減できるように、徹底していました。その他にも給食時の対策としては、黙食に加え、各自の机にパーテーションを設置し、盛り付けは教員が行っていました。また、標準服についても、洗たくして清潔に保ちたい、という保護者からの要望を踏まえ、ジャージでの登校も可能となりました。現在は状況が変わり、保護者会など外からの出入りも増えましたので、使用する椅子の消毒など、必要に応じた対策を都度検討しながら実施しています。今後も引き続き、感染状況などに合わせた対応を行なっていきたいと思います。

感染対策の基本となる手洗いや手指消毒、うがいについてはどのように指導されていますか？

流行の初期より継続して、こまめな手洗いをするように指導してきました。保健だよりでの発信も行なっていますが、保健給食委員の生徒たちが中心となり、手洗いボ

スターを制作したり、クラスで呼びかけをしてくれています。先日、サラヤさんには手洗い教室を実施してもらい、生徒たちも楽しみながら、正しい手洗いができているか知ることができました。手指消毒剤についても、各教室および校舎の出入口に設置し、外からウイルスを持ち込まないよう、努めています。もちろん、アルコール過敏などのケースもあるので強制ではありませんが、生徒たちの様子を見ていると手指消毒について



感染と予防

prevention of Infection



企業の生産性維持のため、従業員の感染症対策は必要不可欠です。企業の総務、危機管理担当者に向けた情報提供サイトとして“そうそう!こんな情報ほしかった!”にお応えします。

<http://pro.saraya.com/kansen-yobo/>



会員様
募集中!

✉ メールマガジンで、最新情報をいち早くお知らせいたします!

感染症対策・熱中症対策・食品衛生のお役立ち情報を多数ご用意しております。
さらに、会員登録でセミナーや啓発ツールなど、会員限定コンテンツがご利用いただけます。

PRO SARAYA の会員登録方法

ホームページ画面上にある「プロサラヤ会員」からご登録いただけます。

(会員登録・メルマガ登録無料) 詳しくは <https://pro.saraya.com/support/index.html#Member> まで

プロサラヤ



サラヤはSDGsを企業活動目標に取り入れています。

生物多様性の保全を目指す

熱帯地域では世界の需要増に伴い急速にアブラヤシのプランテーションが拡大しています。熱帯雨林で生きる野生生物の棲みかを守りつつ、我々の生活に欠かせなくなっているパーム油を持続可能な方法で調達することを重視し、人間社会の発展を目指しながら自然と共存する方法を考え行動しています。

対象商品の売上の1%が
ボルネオの環境保全に使われます。
※メーカー出荷額

対象商品



売上の1%

ボルネオ
保全トラスト



ボルネオ



<https://sdgs.saraya.com/>



12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



17 パートナリーシップで
目標を達成しよう



ボルネオ保全トラスト (BCT: Borneo Conservation Trust) は、マレーシア・サバ州から認められたトラストで、アブラヤシ農園によって失われた熱帯雨林だった土地を買い戻し、野生生物が行き来できる「緑の回廊」を回復させる計画などを行っています。

- 製品は改良のため、予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
- 写真及び印刷の仕上がり上、現品と色合いが若干異なることがあります。
- 掲載製品の詳細については、取扱店または当社にお尋ねください。
- 記載内容は2023年1月現在のものです。

サラヤ株式会社

〒546-0013 大阪市東住吉区湯里 2-2-8

TEL.06-6797-2525 <http://www.saraya.com/>